

感染症ニュース

No.237 2025/01/24

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

日本での現在の流行株は JN.1 系統から変異した KP.3 系統や、さらに変異した XEC 系統が主流で、富山県でも流行している。これらの株は感染力が強く、過去に感染歴があったり、複数回のワクチン接種で免疫があったりする人でも感染し発症する。若年層の症状は軽いが、やはり高齢者は重症化しやすい。一方、JN.1 で作られた今期のワクチンは、流行中のこれらの株にも効果があると言われている。今後も高齢者の重症化予防のためには、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

インフルエンザ

全国的に警報レベルが続いている。富山県でも A 型 (2009pdm) を中心に大流行中である。A 型は感染力が強く、症状も激しく、脳症も起こしやすいので要注意。発熱などの症状出現から 24 時間以上経過しないと迅速検査キットで陽性にならないことが多いので、24 時間以上たってから検査してほしい。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、コロナ明けから高水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても 10 日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。昨年は、急速に全身に感染が広がって重症化する劇症型の発生が多く報告された。

感染性胃腸炎

冬から春にかけてはウイルス性胃腸炎が流行しやすいが、その代表であるノロウイルスにはアルコール消毒は無効なので、石鹼による手洗いを徹底することも重要。

マイコプラズマ感染症

流行は 4 年毎で昨年から大流行中。のどの痛み、発熱、咳などで発症し、2 週間以上、咳が続く。潜伏期間が 2~3 週間と長いので流行も長引く。小児や若年者が発症しやすく肺炎で入院することもある。園内、学校内、職場内、家族内感染が多い。